発行日：2023.7.18
発行者：堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会
編　集：協議会＋SANTO DESIGN STUDIO
連絡先：〒590-0930 堺市堺区柳之町西１丁 1-28
TEL.072-228-0953（志賀）
ＵＲＬ：http://sakaimachinami.jp/

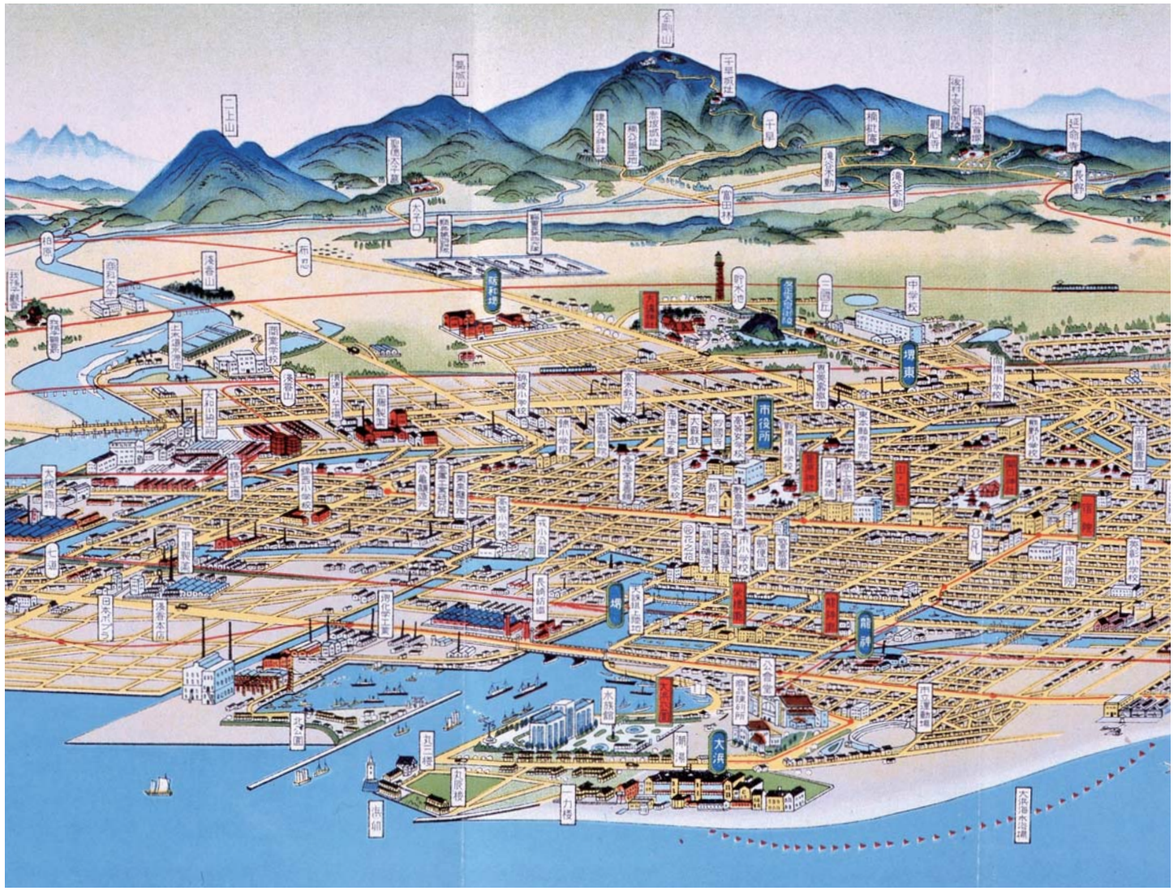
堺 環濠都市 NEWS ［ニュース］

北部

歴史的まちなみを未来に活かすため

令和５年度の定期総会は国の登録有形文化財の櫻館で開催しました！

vol.37



吉田初三郎「堺市鳥瞰図（印刷本）」【部分】（堺市博物館蔵）

NEWS TOPICS

今号では、昨年度完成した修景事例２件のうち、一般建築物１例をご紹介します。

＜清水家住宅＞

平家の一般建築物の修景建物事例です。庇を銅板で葺き、既設金属屋根を瓦に葺き替えました。外壁は漆喰塗と焼杉板貼の腰壁で仕上げ、開口部に格子を設け、修景しています。

今年も地蔵盆の行灯を作りましょう！

今年も、昨年のように、各自描いていただいた絵をお預かりして、行灯を制作し、いつもと同じ会場に展示する予定です。

▶行灯の絵を描きたい人募集！

大行灯　大きな絵を描きたい個人やグループを募集します。絵は６枚分必要ですので、６団体または個人の方で、描いてみようという方は、お申し出下さい。紙や絵の具は、こちらで用意します。なお状況により、一部皆で集合して描くことが可能かどうかも検討します。

小行灯　マイ行灯（小さな行灯）の絵を自分で描きたい個人も募集。行灯の紙はこちらで用意しますので絵を描いてお持ち下さい。（絵の具もご相談に応じます。）

◎どちらも先着順です。８月８日までにお申し込み下さい。完成した絵は、８月１５日までにご持参いただきます。
（申込み先：堺町家案内所または、TEL072-228-0953［協議会・志賀］まで）

行灯の木枠のリサイクルします！ 以前に使用された行灯の木枠をリサイクルします。今年、絵を描く、描かないに関わらず、木枠をお持ちで御不用の方は堺町家案内所までお持ちいただくか、上記まで、ご連絡下さい。よろしくお願いします。

INFORMATION

▶地蔵盆の行灯の展示

８月23日（火）/24日（水）

場所：第１会場：六万体地蔵から櫻館（桜之町西３丁の六間筋）
　　第２会場：来迎寺門前の駐車場（綾之町西２丁）
時間：展示時間については、後日、改めてお知らせします。

▶予告：町なみ再生シンポジウムⅢ「歴史的景観の未来」

日時：2023 年 12 月 10 日（日）13:00～
会場：開口神社・瑞祥閣（集会室・羽衣）堺区甲斐町東二丁（山之口商店街に隣接）
詳細は次号でお知らせします。

※予定は変更になることがあります。

▶協議会へのお問い合わせはこちら
堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会
TEL　072-228-0953［志賀］
MAIL info@sakaimachinami.jp

▶「まちなみ修景補助制度」へのお問い合わせはこちら
堺市 建築都市局 都市計画部 都市景観室（景観グループ）
TEL 072-228-7432
FAX 072-228-8468

今号の表紙

今号の表紙は、商業画家・吉田初三郎の「堺市鳥瞰［ちょうかん］図（印刷本）」の中心部分です。近代に入り、多くの人々が観光案内書を手にして各地を旅行する時代の要請によって、パノラマ地図（観光鳥瞰図）が数多く制作されました。「堺市鳥瞰図（印刷本）」は、昭和九（1934）年に堺市役所が吉田に依頼して制作した原画を元に翌年出版されました。堺環濠都市が一望できますが、環濠都市北部地区の部分では、錦小学校・錦西小学校、西本願寺別院の文字が目を引きます。そして、環濠の北の橋を渡ったすぐ北側には、鉄道関連で有名な梅鉢鉄工所や、大阪織物、大和川染工所の建物が建ち並んでいます。江戸時代鍛冶屋町として栄えた北部地区の北側に、新しい工場群が展開したことが見て取れます。　また、昭和九年の室戸台風の被害から復興しつつある海岸部の大浜公園や、各地の小学校、公共施設、明治時代以降建設された近代的な工場群等が表されており、新しい近代の息吹が感じられます。（『パノラマ地図セレクション－吉田初三郎の世界－』＜堺市博物館 2010 年＞参照）

前号NEWS発行から現在までの進捗情報

第12回（令和５年度）定期総会を開催しました！

| 2023.5.14 国の登録有形文化財・櫻館にて 午後１時 30 分～ |

今年度は、本協議会の最終年度でもあり、新型コロナの感染症法の位置づけが、２類相当から５類に移行した事もあって、総会の会場を、少し狭いですが、町家としては北部地区で唯一の国の登録有形文化財・櫻館で開催するという試みをしました。

総会では、「令和４年度活動報告及び収支決算書について」、「令和５年度事業計画（案）及び予算（案）について」等の各議案が承認されました。また、都市景観室から「まちなみ修景補助制度」についての説明と、堺環濠北部の町なみを考える会の世話人から、堺市と協働で取り組んできた「景観規制について」の最近の状況や、昨年明らかになったこの地域の都市計画の問題点などの説明がありました。

今年度は、顧問である連合自治会会長（錦西校区）の西村氏にもご参加いただき、名実共に、総会らしい総会になりました。

そして、休憩の後、高野山大学名誉教授の奥山直司氏に『慧海のふるさと―町と人と―』という題で、ご講演いただきました。（詳細は、次のページをご覧ください）。

TOPIC 1　令和５年度事業計画

①協議会ニュースの発行　②協議会ホームページの維持管理 等
③町家・町なみの調査 等　④町なみ再生に向けた勉強会 等
⑤イベント等による周知啓発　⑥役員会等の会議開催

TOPIC 2　令和４年度収支決算

収入　（単位：円）

項目	予算額	摘要	決算額	摘要
堺市補助金	500,000	堺市補助金	500,000	堺市補助金
雑収入			0	繰越金
			1	雑収入
合計	500,000		500,001	

支出　（単位：円）

項目	予算額	摘要	決算額	摘要
調査研究活動費	460,000		480,961	
広報費	250,000	協議会ニュース発行、ホームページ維持管理等	228,060	協議会ニュース発行、ホームページ維持管理等
研究会開催	30,000	勉強会開催費、資料コピー等	123,080	講座開催費等
周知啓発費	180,000	イベント開催費、チラシ作成等	129,821	イベント開催材料費等、ポスター・チラシ作成等
運営事務費	40,000		19,040	
会議開催費	30,000	会場借上げ、資料コピー等	10,095	総会資料印刷等
事務用品購入	5,000		6,112	事務用品購入
通信・運搬費	5,000	切手代等	2,833	切手代等
次年度への繰越し			0	
合計	500,000		500,001	

TOPIC 3　令和５年度予算（案）

収入　（単位：円）

項目	予算額	摘要
堺市補助金	500,000	堺市補助金
繰越金	0	
合計	500,000	

支出　（単位：円）

項目	予算額	摘要
調査研究活動費	470,000	
広報費	325,000	協議会ニュース発行、ホームページ維持管理等
研究会開催	50,000	勉強会開催費、資料コピー等
周知啓発費	95,000	イベント開催費、ポスター・チラシ作成等
運営事務費	30,000	
会議開催費	20,000	総会会場借上げ、資料コピー等
事務用品購入	5,000	
通信・運搬費	5,000	切手代等
合計	500,000	

PICK UP　堺環濠都市北部地区は、仏教教典を求めて、単身、鎖国のチベットに潜入した偉大な先人・河口慧海のふるさとです！

今回は、堺環濠都市北部地区を少し違った角度から考えようということで、この地区出身の仏教僧で国際人・河口慧海について、慧海研究でも第一人者でおられる仏教学者の奥山先生にご講演いただきました。

講演：慧海のふるさと ―町と人と―
［講師：高野山大学名誉教授　奥山直司氏］

［講演内容］

奥山先生のご講演は「人は誰でも生まれ育った環境から自由ではありません。とりわけ家族、友人、知人、恩師などとの人間関係は人生にとって決定的なものです。本日は、慧海さんの幼少年期から青年期に焦点を当て、この並外れた人物を育んだ堺の町と人について考えてみたいと思います。」という話で、始まりました。以下に、その概要をまとめます。

堺といえば、堺商人のイメージがありますが、それは、江戸時代より前のことで、江戸時代以降、堺は職人の町でした。慧海も「樽善」という樽職人の家に 1866（慶応２）年に生まれました。12 歳で小学校を退学して家業に従事しました。それは、当時としては、けっして珍しいことではなく、普通のことでした。段取りが良く、仕事が早い、独立心が強く、他者に依存しない、機転が利いて、話も面白い、というような慧海の人となりは、まさに職人の気質そのものです。

1880（明治 13）年、慧海 15 歳の時、戎之町にあった、土屋鳳州の晩晴書院で漢学を学ぶようになり、また、祖母の持っていた釈迦の伝記を読んで発心したのもこの頃でした。晩晴書院で、慧海は読書力や文章力を身につけ、良き学友にも恵まれました。中でも、同い年の肥下徳十郎は、生涯、物心両面から慧海を支えてくれました。最近になって二人が出会った 15 歳頃の二人で写した写真が見つかりました。

また、慧海の遺品の中に、慧海が２回目の旅行から帰ってくる直前に 50 歳で亡くなった肥下徳十郎の若き日の写真があり、「三十五年間の親友　十八年間之外護者　故肥下徳十郎士」と慧海の書き込みがあります。とことん突き詰める慧海の職人気質が、チベットに本当の仏教の教えを探しに行くという行為に繋がり、また文化事業に理解があった、肥下徳十郎を始めとした学友や竹馬の友などの堺の旦那衆が、慧海を支えてくれたのです。

慧海のチベットからの将来品が東北大学に所蔵されていて、そのことが奥山先生が慧海に興味を持たれたきっかけでした。所蔵品の中には、慧海が作った植物標本もあり、それは、職人的なまめまめしさ、手先の器用さを感じさせるものだということでした。

今も江戸時代の元禄の大絵図に表された町割がそのまま残る堺環濠都市北部地区は、稀有な国際人で堺の職人である慧海が生まれ育まれた町であると同時に、その親友で支援者の肥下徳十郎が生きた町でもあります。お話を聞いて、今後とも歴史あるこの町を守っていきたいと決意を新たにしました。